

第11回 熊本市自治推進委員会会議録概要（案）

日時：平成26年2月20日（木） 午後3時～5時

会場：熊本市役所 駐輪場8階会議室

出席者：上野委員長、荒木副委員長、浅尾委員、石田委員、金子委員

坂口委員、中村委員、野中委員、毎熊委員

欠席者：松崎委員

上野委員長	<b>1 開会</b> ただいまより、第11回熊本市自治推進委員会を始めます。 本日は松崎委員が欠席ということですのでご報告します。 議事に入ります前に、事務局から配布資料等の確認をお願いします。
事務局	(資料確認) ・ 第11回委員会次第 ・ 資料1「第10回までの自治推進委員会委員意見」 ・ 資料2「答申書（案）」 ・ 参考資料1「第9回 熊本市自治推進委員会会議録概要」 ・ 参考資料2「第10回 熊本市自治推進委員会会議録概要」 以上が用意しております資料ですが、不足しているもの等はございませんでしょうか。
上野委員長	<b>2 議事</b> <b>(1) これまでの検証における意見について</b> それでは次第に沿って進めていきたいと思えます。本日のメインテーマは答申書をできれば決定というところまで持っていきたいところです。ですが、前回より少し時間が空きましたので、これまでの検証における意見について振り返りご確認をいただいてから進めていきたいと思えます。事務局より資料1についてご説明をお願いします。
事務局	資料1をお願いいたします。10回までの委員の方からの意見の振り返りということで主なものをまとめさせていただいております。まず、前回の第10回の方でございます。大きく分けると、太字でタイトルを整理しております。6項目ほどグループ分けしておりますので、その整理に沿って説明させていただきます。 まず、「地域コミュニティのつながりについて」ということで、「有機的連帯を好む都市化した社会において、昔のような協働が根付いていた機械的連帯に戻れるか。」といったご意見がございました。 それから、「地域コミュニティ活動と市民公益活動の関係について」ということで、それぞれに相違点があるということで、「地域での協働と市民公益団体の協働は分けて考える必要があるのではないか。」「まちづくりにおいて、NPOの居所が分からない。好きなことをやる楽しさややりがい原動力であるNPOと地域団体の活動は性質が異なる。」というようなご意見をいただきました。 それから、「市民公益活動、サークル的活動の可能性について」ということで、「サークル的な活動が繋がって、校区のつながりになればよいのではないか。」というご意見などをいただいております。

	<p>さらに、「ネットワークなどを生かした新しい協働のあり方について」のご意見もいただきました。「ネットワークを生かした新しい協働の形を模索していく必要がある。」「地域の活動に興味を持って入ってくれる方が少ない。」「ただ情報提供、啓発するだけでは続かない、そのようなところに NPO などの活動が組み合わさって問題を乗り越えるという方法しか考えられない。」「大きな目標を共有し、集まる機会、仕組みをつくと、ネットワークが広がりアイデアを出し合い、住民のできる範囲、立場で活動していけるのではないか。」などのご意見をいただきました。</p> <p>「行政との関係について」は記載のとおりです。</p> <p>それから以降は、9回以前のご意見です。前回にも確認させていただきましたが、振り返りということで改めてご説明させていただきます。</p> <p>「地域の防災対策について」については、住民の参加意識ということで、「地域の皆さんの関心が高かった。参加の意識が高まっていた。」「新しい住民をどのように巻き込むかが課題。」「目的を共有し、危機感を持って主体的に参加しているところが良かった。」「大江で参画・協働で取り組むことに、ハザードマップ作成ということがあった」「地域力をつけるために良いテーマであった。」などのご意見をいただきました。</p> <p>それから、「行政の対応について」の意見ですとか「取り組みの広がりについて」の意見もいただいております。</p> <p>次に、地域の健康づくりの方ですけれども、こちらは「住民の参加意識について」、「コミュニティについて」の意見をいただいています。</p> <p>その外、「地域のまちづくり全体に言えること」として、中ほどになりますが、「ムラ組織が活着しているところでは、指揮系統でのまちづくりがうまくいくかもしれないが、そうでない地域もあつたりと熊本市内も様々なのだと感じる。」「地域のつながりだけでなく、別のつながりでこのようなことも考えていく必要があるのではないか。」といったご意見もありました。</p> <p>さらに下の方ですけれども、広報活動に関しては「広く浅い情報伝達になっている。情報提供のマーケティングが必要。」ですとか、「地域団体にだけお知らせするのではなく、他の団体へも積極的にお知らせすることで、情報を広げていく必要がある。」というご意見をいただきました。</p> <p>最後に、「市民の知恵と行政を結びつけるプラットフォームの役割が市民協働課に必要。」という意見をいただいたところです。</p> <p>以上簡単ではございますが、これまで委員の皆様方にいただいた意見について説明させていただきました。</p>
上野 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これまでの委員会における委員の意見を整理していただいたところですが、何か、重要な観点から発言した意見が漏れているとか、少し発言の趣旨が違うですとか、ご意見がありましたら出していただければと思います。</p>
坂口 委員	<p>メモ程度に使われるのであれば、問題はないのですが、1枚目のNPOについての説明の部分ですが、「・・・好きなことをやる楽しさややりがい原動力であ</p>

	<p>る NPO・・・」とただ楽しいだけでやっているという軽い感じの書き方になっているので、専門性を持って活動しているという内容を加えていただければと思います。</p>
上野 委員長	<p>わかりました。それでは、そのように修正をお願いいたします。 外にありませんか。</p>
中村 委員	<p>1枚目の上から5行目、「命令されればやるといった地域もある。」とありますが、これは、中島校区のことですか。もし、そうであれば、前段に「組織体制が整っていて」など、書き加えていただければと思います。いきなり見たら、カチンとくると思います。自治について分かっている人はいいのですが。</p>
上野 委員長	<p>そうですね。たくさんの意見から引っ張ってきていますので、そのニュアンスを誤解されないように修正をしてください。</p> <p>なお、ここに書いてあることが、答申（案）の方にも書き込んであります。先ほどの、坂口委員のご指摘ですとかも含めて、答申（案）を見ていく時にも配慮していただく必要があると思います。</p> <p><b>（2）答申書（案）について</b></p> <p>外に何かございますか。特にないようであれば、早速、答申（案）について入っていきたいと思います。</p> <p>これまで、いただいてきたご意見を整理して、それをどのように文書にしていくなか、荒木副委員長とやりとりをしながら、私どもで答申書の書き込みをいたしました。昨日、改めて読んでみましたら、日本語がおかしいところもあります。そのような、修正も行いながら、さらに、観点としてこのような表現の方が相手に正しく伝わるとか、このような観点が漏れているなどのご意見を頂ければと思います。</p> <p>答申書の構成は、まず、一枚表紙をめくっていただいたところに、「はじめに」とあります。そして2ページ目に「検証の目的と方法」について、3ページ目に「現地調査を行った取り組み」について、そして、「取り組みを検証して見えてきたもの」、全体的な「総括」という形の章立てになっております。4ページ以降が本編的なものとなっていくのだらうと思います。</p> <p>本日、ご意見いただくにあたり、ご協力いただきたいのは、文書にしていけますので、気づきについてお話いただくのはもちろん結構ですが、併せて、出来ればこういう文言という具体的な表現についても、お話をいただければと思います。</p> <p>「はじめに」は、市長宛に「諮問をいただきましたので、答申します。」ということと、自治推進委員会の活動でサンプリング調査、現地調査をおこないました。そして、その中で多方面に応用できるような、優良な取り組み事例にとりわけ注目しながら、検証を行いました。こういう、市民協働に資するような方法を市役所全体に広げて欲しいということで提言します。</p> <p>「はじめに」の部分について何かご意見はありませんか。</p>
浅尾 委員	<p>私は話をするにあたって、忘れ易いものですから、メモを作ってきておりますので、配らせていただければよろしいでしょうか。</p>

上野 委員長	どうぞ。
浅尾 委員	<p>「はじめに」について、いくつか文言で分かりにくいものがありますので、書き換えるなり、説明を加えるなりしてはどうかと思っています。</p> <p>後段の方に書いてあるのですが、「今後、今回の検証で取り上げた事例のように、・・・」以降で、「市全体の事業に模倣し」という「模倣」の使い方ですとか、「さらに試行錯誤しながら取り組みを」の「試行錯誤」であるとか、「進化させていく工夫が行われることが」の「行われる」の使い方、「自治を推進するエンジンとなる」の「エンジン」という言葉、例えば「推進する原動力となっている」とかいう表現ではいけないのか。大きなことではありませんが、これらの文言が少し気になりました。</p> <p>今回、私の知識がないせいだろうと思いますが、新たな言葉を目にさせていただき気になったのが、「積極的逸脱」という言葉です。この言葉が新しいものか古くからあるものかは分かりませんが、積極的と逸脱がくっついた言葉。もともと外来語を訳したものがこのような言葉になっていると思うのですが、これについて質問をさせていただきますということで、ペーパーにその質問についても書いています。</p> <p>今回、この言葉が出てきたのは、今回検証した2件の取り組みが積極的逸脱の事例としてどうなのか、そういったことがあったから上手くいっていると判断されているのか。根本的にこの積極的逸脱について、まずは教えていただきたいと思います。</p>
上野 委員長	<p>はい、わかりました。</p> <p>この言葉については、委員会の中でも使ったかもしれませんが、浅尾委員が仰られるように、この言葉は新しい行政を変えていく概念として米国で発達をし、現在は世界各国で使われており、特に人権問題ですとか、或いはなどで使われている概念です。ただし、聞いた時に分かりづらい部分がありますので、別の表現でもかまわないと思いますが、その意味はですね、この検証をした2つの事例が積極的逸脱ということではありません。事例の中にありましたような、住民の方々が日常的に集って地域の事が共有され、それぞれが役割を分担されているという、そういう行為自身は私達にとってある意味理想系ではありますが、現実社会では非常に稀なケースではないかなと思います。乱数分布といいますか、例えば心情や行動などは、真ん中くらいのところが件数が多く、両脇の特に悪いとか特に良いというのは、とても少ないと見られることがよくあります。もちろん、山の位置（件数の多い部分）はいろいろと思いますが、積極的逸脱というのは、この特に良い方、通常よりもなぜか良い、そのようなところに注目をして、それをもっと応用できないかなというところに着目するような手法になります。浅尾委員を含め多くの方が疑問に感じられたかもしれないのですが、ここで私が伝えたかったのは、大江や松尾北がすばらしいということではなくて、行われていた取り組みの中に、非常に良い取り組みがあり、できればそれを実現したいのだけれども、多分、外のところでは非常に難しい状況になっている。そこを注目することで、</p>

	<p>どうやったらそういうことができるのかというヒントを得られないかということを書いていました。そういうつもりで調査に行ったということもあり、答申を書いていくなかで、この言葉が、全てを総称するような言葉として、私には思われました。答申書のはじめにのところでするので、そこに大きな意味を込めているわけではないので、「別紙のとおり答申します」でもよいのですが、少し新しい視点で、行政の改革を進める時に、単に悪い行動を指摘するというだけではなく、特に良い行動に着目しながら進めていくということを取り入れられたらどうかという気持ちが、こういう言葉を引っ張り出させてしまったのだらうと思います。</p> <p>試行錯誤という言葉も近年、非常に良い意味で使われています。私たちは最初から完成形の計画や実行プランを作ろうとすると、それをやったことで終わってしまいます。或いは、それに着手できないまま難しいと言って何もしない。ですから、まずは恐れずやってみる、そして、こういうプロットタイプ作って改善していくというやり方が、近年、デザイン試行であるとか様々な社会的イノベーションを起こす上でも重要だと言われています。そのような意味合いでここに試行錯誤という言葉を使ったということです。試行錯誤していくということは、計画したものをPDCAサイクルで回して一丁上がりではなく、さらに、質的に改善をしていただくということも含めて進化していくということを意識していました。「工夫が行われることが」というのは語呂が悪いというご指摘、エンジンというカタカナ語を使わなくてもよいというご指摘は仰るとおりと思いますので、修正することもやぶさかではないと思います。そのようなご指摘は文書としての完成度が上がるのであれば、非常に良いのではないかなと思いつつ伺いました。</p> <p>文書を書いて直してもらったのですが、ひとつひとつの言葉に私自身こうでなければならぬというつもりはあまりありませんので、浅尾委員の仰られたとおり、「積極的逸脱」や「試行錯誤」を外し、「工夫を行うことが、熊本市の自治を推進する原動力となる。」というふうにしても、もちろんかまいません。</p> <p>石田委員、何か積極的逸脱について補足はありませんか。</p>
石田委員	<p>上野委員長がご説明されたとおりですが、積極的逸脱については、学問的にも新しい概念であり、答申書の中では「成功事例の中でもとりわけ良い成果をあげている事例」とありますが、それプラス悪条件ですね、逆境の中にありながらも、例えば、まちづくりでありましたら、若い人があまり自治会に参加しないという状況にあるなかで、ここのエリアだけは何故か、若い人の参加、子育て世代の参加が上手くいっているとか、そういったところに着目する考え方です。そういったところに着目した時に、外のところと違う、どのようなコミュニケーションをとっているのかということ客観視するというような一つの方法論なのですね。この言葉自体は、大学や専門家の間では徐々に広まってきているのですが、一般にまでは至ってないので、委員の皆様がどういった反応をされるのかは心配していたところです。</p> <p>私や上野先生は、熊本大学に専門の方を呼んだり、欧米においてこのような考え方を普及させようとしている方々との共通認識があったりするのですが、NPOや地域の活動の中で、このような考え方が上手く定着させていくには、まだま</p>

	<p>だ、日本でも成功事例ですとか、積極的逸脱とは何かということを専門家だけではなく、一般の方々とも定義していく必要があると思います。</p>
上野委員長	<p>言葉として認知されていないということは、私もそう思うのです。ただ、注目する観点、そこについては共有していただけるのではないかなと思います。「こういうところが足りませんよ」とか「情報の周知のやり方を工夫しなさいよ」という指摘を言いがちですけども、それは、言う人にとっても言われた方にしても、どうやっていいのか工夫が出来ない。であれば、市役所の取り組みの中にも、上手く行っている事例を見ながら、政策の遂行の中に応用していただくという考え方を、今度の答申では伝えられたらなという希望を持っています。</p>
浅尾委員	<p>そうであろうとは思いつつも、分からない言葉が突然出てくるとどうかなと思います、であれば、解説があって欲しいなと思います。</p> <p>解説を聞きながら、このような観点で仕事をやっていくということはとても良いことだと思います。行政の人達も、やると決めて出来ないこともあるでしょうし、その中で試行錯誤していくことで、「これは上手く行ったこれは使えるね」ということで、次に進めれば良いと常日頃思っていたところにプレッシャーが来て飛ばされたと聞くと、なんとも気の毒だなという気持ちもあります。上が先に決めていくせに、徹底した議論も無くしてということもありました。こういう概念が出てきて、これを取り入れていくということは新しい自治体にとっては大切なことかなと共感いたします。</p>
上野委員長	<p>本文の中でも、積極的逸脱という言葉を使っていませんので、はじめにの部分ではあえて積極的逸脱という言葉を使わなくても、このようなことに注目していくという趣旨を盛り込んだ文書として改めましょうか。</p>
荒木副委員長	<p>今、ご意見が出ましたように、急にテクニカルタームが出てきていることに馴染めない。確かに、市役所の職員の8割がこの言葉を分からないのではないかなと思います。中間の言葉を継ぎ足して、この言葉に持っていくことが出来ないかなと考えていました。中間の言葉は何だろうなと思って、中央政府、各省庁で地域興しのための様々なプログラムを用意しておりまして、例えば、地域協力員制度、補助員制度など、各省で言っているのですが、それらを並べてみたのですけれども、一つ気になったことは、地域の内発的な力でもって、地域の発展を呼び覚ましていくという、その力になるものの表現が、中央政府の各省庁のプログラムの中に無いということだったのです。これは、あくまでも私自身が見た範囲ではございます。そうすると、大江とか松尾北を見た時に、内発的に地域発展のための地域住民のエネルギーの発散みたいなのが見えました。地域興しのための付加価値を政策的に満たしている活動ではないかと。そこら辺りについて、中間的な言葉として足してあげると、市の職員の8割の人達も理解してくれると思います。易しい言葉で全体の意味、内容を表現することは、大変に難しい。だから、このテクニカルタームが利用されたのですけれども、この点、少し継ぎ足してあげる必要があるかなと思います。中央省庁のプログラムを見ても、なかなかその概念は出てこないから、熊本市の各地域の中で産み出されている活動を評価する言葉として、積極的逸脱とはこういうことで、熊本市で行われている活動に直す</p>

	と、こういう付加価値を持った市民の活動であるというふうに、継ぎ足してあげるとよいのではないかと考えています。
上野 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回の委員会の議論が豊かになるという意味では、意味があったような気もするのですが、はじめになのでそんなに意味があるわけではありませんけれども、本文でもこの言葉を使って説明はしていないので、あえてこの言葉に拘らなくてもいいような気がします。</p> <p>浅尾委員が言われたような部分ですね、良い取り組みを外の部分でも応用していただきたい。模倣という言葉いいかどうかも含めて、「応用し広げ、さらにそれを良いものに進化させていく、こういう取り組みを意識的に市として展開してください。」というような形で、真ん中の6行ぐらいを外して、すっきりとしたものにさせるということではいかがでしょうか。</p> <p>委員会の中で議論させていただいたことは、議事録に残ります。私はこの積極的逸脱の概念を売り込もうという気持ちもありませんので、皆さんがたと共有できたということで、文書からはこの部分を外させていただいていいですか。</p>
中村 委員	英語の部分だけを外すということはいかがですか。私のイメージでは、プログラムやコントロールからの逸脱、自立とか独立のようなイメージがあります。分かる人にはある程度分かると思います。はじめにの部分での、なげかけと捉えれば、後半の文書と合わさってとても面白いと感じました。
上野 委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この言葉は多分、日本語で辞書を引いてもほとんど出てこないのです。「positive deviance」であれば、たくさん出てきます。そこら辺りが、大変悩ましいところです。注釈におとすという手はあるかもしれません。</p>
坂口 委員	正直、私も、はじめにのところで、この言葉が出てきたので、なんなのだろうなという気はしたのですが、ご説明を聞いて、この言葉自体は、すごく的確にこの事例を表現していて良い言葉だなと思ったので、最後の、統括あたりでこの言葉を入れてまとめられ、そこに注釈として、積極的逸脱とはこういうことだといれてはどうかと思います。折角、今回、良い言葉をお聞きしたので、個人的には使った方がよいのではないかと思います。
上野 委員長	ありがとうございました。外にありませんでしょうか。
浅尾 委員	この言葉、日本語だけで見ると、とても危険な言葉のようにも見えます。積極的逸脱なんて、暴走族が聞いたら大喜びしそうな感じです。もう少し、この言葉が世の中に出てきてからがよいような気がします。また、別の言葉が出てくれば良いのですが、お配りした資料にも書いているのですがけれども、積極的逸脱の反語は何といった時に、積極的遵守とか消極的逸脱というように全く別の意味の言葉が出てきます。このように、別のルートで発展して行き、本来の趣旨と違うところで理解される恐れがあります。外来語を日本語に直す時は、とても注意してやらないといけない、初めの時は特にそう思います。
上野	まさにそのとおりだと思います。

委員長	他方で、中村委員や坂口委員が仰っていただきましたように、今回、私たちはこのような観点に興味を持って見ましたという痕跡をどこかに残した方がよいというご意見もありましたので、
荒木副委員長	この文書を眺めておいていただきたいのですが、「成功事例の中でもとりわけよい成果をあげている事例の存在に気づき」として、「いわゆる「積極的逸脱」を外して後ろの方で、こういう方向にあるのだという意味・内容を説明したコメントを付けておけば、意味が通じて生かされると思います。今言ったことを外しても意味は通じます。なんら疑問は生じないと思うのですがいかがでしょうか。
上野委員長	いま仰ったのは、「いわゆる「積極的逸脱 (positive deviance)」の存在に気づき」までを外すということですか。
荒木副委員長	成果をあげている事例の中に、積極的逸脱を入れ込んでしまうと解釈です。事例の中には様々な事例があって、その中に、逸脱的な行動、営み、営為も入り込ませるという理解をすれば良いのではないかと。表現不足の分は後ろでコメントしておけば生きていくのではないかと考えたわけです。
上野委員長	現実的な話として、はじめにの上段部分は特に委員の皆様からも意見がありませんでした。まさに、事実を語った部分ですね。 今後以下の部分を、「今後、今回の検証で取り上げた事例のように、効果のあがる市民との情報共有、参画、協働の方法について、市全体の事業に応用し、広げ、さらに取り組みを進化させていくことが期待される。」とすれば、先ほど、ご指摘いただいた模倣とか試行錯誤といった言葉は使わなくて済みます。エンジンという言葉も特にいりませんので。
荒木副委員長	模倣という言葉は創造、クリエイティブにしたらどうでしょうか。創造し広げという具合に持っていけば生きてくるのではないのでしょうか。
上野委員長	浅尾委員に確認ですが、積極的逸脱という言葉は使わない方がよいというご意見には変わりないですね。
浅尾委員	私は、個人的に使わない方がよいと思います。
上野委員長	意味合い的に、このような観点で今回議論したということについては、問題ありませんということですね。この最後のパラグラフの部分については、もう少し文書を考えさせていただきたいと思います。中村委員や坂口委員からいただいた意見も踏まえて、はじめにに入れたいといけないのか、これから見ていただくその後の文書の中に入れるのかということもありますが、このはじめにの部分については、私にご一任いただけますか。いただけますか。  <p style="text-align: center;">＜ 委 員 承 認 ＞</p> <p>ありがとうございます。それでは次に進みたいと思います。</p>
事務局	「検証の目的と方法について」読み上げ 以下、テーマ、主な取り組み内容については事実を記載しております。

上野 委員長	<p>このような方法で、検証を進めましたということに記載している部分ですが、ここについて何かご意見がありますでしょうか。</p> <p>特にございませんでしょうか。それでは、ここにつきましてはご了承いただいたということで次に進みたいと思います。</p> <p>次も、事実について記載してあります。現地調査を行った取り組みについてということでお願いいたします。</p>
事務局	<p>「現地調査を行った取り組みについて」を読み上げ</p> <p>下の方に写真を掲載する予定です。現在、掲載している写真はイメージ的に載せているだけで、この写真を使用するというものではありません。</p>
上野 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここの、部分も調査を行った事実の経過を書いているところですが、何かお気づきの点がありましたらご意見いただければと思います。</p> <p>自分で書きながら少し気になる点がありますので申し上げます。健康まちづくりの項目の上から3行目、「健康まちづくり事業は、・・・」から始まるセンテンスがとても長いので、「・・・生活習慣病対策をすすめることに重点を置いた市の取り組みである。」にして、「これまで6校区において、市民との協働により生活習慣病改善モデル事業を実施していたが、現在、・・・全庁挙げて取り組んでいる。」でよいかと思います。</p>
荒木副 委員長	<p>実際にやったことを、あれもこれも一つの文書に表現したいために、こういう風になってしまっていますが、短く分かり易く切って行って、すっきりとさせた方がよいと思います。</p>
上野 委員長	<p>イメージ写真は、サンプル的にこのようなものになるのでしょうかけれども、何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>どっちの写真がどっちの取り組みなのか、よく分かりませんね。</p>
野中 委員	<p>上野委員長が仰ったとおり、どっちの写真なのか区別が分からないですね。どちらも話し合いの場面なのですが、例えば、大江校区の場合などは、実際、まち歩きをして現地を見ていらっしゃると思いますので、そういった写真の方がよいのではないかと思います。</p>
荒木副 委員長	<p>川べりの水が増えている様子などを、住民が眺めているような写真の方が、防災のイメージを与えますよね。それから、健康まちづくりの方は、例えば、あの地域で健康食のレシピを考えて、お料理をしている様子だとか、子ども達がそれを食べている様子などの写真があれば、取り組みに繋がるような気がします。</p>
上野 委員長	<p>気持ちは現地調査の証拠写真を掲載したかったのですよね。防災の方は、雨の中、傘をさしてまち歩きをした写真が、多分ありますよね。健康まちづくりの方は私たち委員の顔写真は結構ですので、もう少し、地域住民の皆様がクローズアップできる方がよいと思います。</p> <p>それと、どっちの写真がどちらの取り組みの様子なのか、私たちは見ればわかりますが、読む人には分からないと思いますので、写真の表題なり説明なりを付記していただければと思います。</p>
金子	<p>読みやすさとしては、それぞれに入れた方がよいのではないかと思います。</p>

委員	
上野 委員長	そうすると、表題や説明もいらなかもしれませんね。
中村 委員	よろしいですか。健康まちづくりの項目の3行目、「もともと若い世代から・・・」とあるのですが、「20～40歳の若い世代・・・」の方がよいのではないのでしょうか。そのように施策で決まっていたのではないかと思います。健康まちづくりの対象の主が20～40歳をターゲットとしていますし、詳しい市民が読むと違和感を感じるのではないかと思います。括弧書きでも構いません。
上野 委員長	中村委員が仰っているのは、健康まちづくりの若い世代とは20～40歳で決まっているということですね。
中村 委員	そうです。その世代をターゲットに健康診断などを実施しています。
上野 委員長	施策として決まっているのであれば、正式に記載した方がよいでしょうね。
事務局	健康づくり推進課に確認して、この部分は正確な表現に直したいと思います。
上野 委員長	行政の文書のように、あまり正確に書くと読みづらい文書になるので、手心を加えつつ表現を工夫していくことも必要と思われます。 それでは、次に進みたいと思います。「取り組みを検証して見えたもの」として、4つの柱にしています。自主・自立的な活動ができている、強い信頼関係が構築され協働ができている、地域の特性を生かして取り組まれている、それから、ネットワークというものが重要だという観点から書いています。 これ以外に、柱として重要な観点などのご発言も含めてご意見をいただきたいと思います。それでは、お願いいたします。
事務局	「取り組みを検証して見えたもの」を読み上げ
上野 委員長	ありがとうございました。 何か修正点等ございますでしょうか。
浅尾 委員	全体的によく出来ていると思います。 一箇所だけ、4ページの下から3行目、「お互いの役割をそれぞれで行う・・・」という部分ですが、「それぞれで果たす」とか「それぞれで担う」という文言の方がよいのではないかと思います。あとは特にありません。
上野 委員長	P5の3の第2パラグラフの最後の辺り、「実際に災害が発生した際の自治会をまたがった柔軟な活動や日頃の住民間の情報共有の活発化が期待できる。」くらいでいいのではないかと思います。それと、同じく3の第4パラグラフの入りか、「例えば」となっているのを、「ただ」に変えた方が繋がりがよいと思われます。それと、次の4の3行目、「姿勢も見られた」とありますが、「も」は先に何かあつての「も」ではなさそうなので、「が」と思います。
荒木副 委員長	「4 まちづくりのネットワークを構築する」は将来に向けてのことかと思いますが、ほかにも将来に向けて見えてきたものを強く打ち出したらどうかと思います。第9回の委員会で私はまちづくり文化大学の構想についてお話をしたかと

	<p>思います。例えば、そのような構想の樹立に向けてというようなことも将来にとって必要なと思います。地域住民の皆様が自分達でまちづくりを行えるまちづくりの範囲について、それから、そこにお住まいの生活文化について、子どもの時にこのようなことを経験しやってきた、というようなことを子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでひっくるめて短い時間で話あうようなもの、いわゆる体験発表を月1回程度地域においてやっていくとか、それからその地域が持っている歴史、その地域が抱えている課題、その課題を乗り越えて発展の方向へ導くという将来構想など、思い浮かんでくる項目を5つくらい文章化すれば、P6の空いている部分に入れられるかなと思います。P5の4だけでも、将来に向けてのこととしては良いと思いますが、あえて入れるとすればということでの私の考え方です。</p>
上野委員長	<p>この章では取り組みを通して見えてきた論点のようなことを書いていて、副委員長が仰られた点は、今後への取り組みに対する示唆のようなものが含まれているような気がします。そうしますと、例えば最後のところに、総括で縷々かいてる中に、先ほどの副委員長のご意見を入れるということではいかがでしょうか。</p>
荒木副委員長	<p>それは構いません。ただ、取り組みを検証して見えたものの中に、将来こういう具合に結びつくのだなというふうに位置づけるかどうかだけの問題です。</p>
上野委員長	<p>今の、荒木副委員長のご意見について、委員の皆様から何かご意見をいただければと思います。</p>
浅尾委員	<p>せっかくの良いご提案ですので、総括の中にあつたほうが、意味があるのではないかと思います。この章の中に埋もれさせてしまうのはもったいないと思います。</p>
上野委員長	<p>それでは、荒木副委員長、総括の中に盛り込むということで、よろしいですか。</p>
荒木副委員長	<p>はい、それで構いません。</p>
上野委員長	<p>今、荒木副委員長が第9回の委員会の時に、お話しになった会議録を見ているのですが、総括の中に含ませるのか、或いは、総括の中で、もう一項目、立てるべきかも含めて、荒木副委員長に文書化していただくなり、具体的にご意見をいただくなりしないと、盛り込めないかなと思います。</p> <p>その件につきましては、総括を見ていく時に、再度、お話をさせていただくことにしまして、この取り組みを検証して見えたものについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>では総括にはいります。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>総括について読み上げ。</p>
上野委員長	<p>はい、ありがとうございました。少し長めの文章ですが、ご意見をお願いいたします。</p> <p>先ほど、坂口委員が仰られたことは、P8の真ん中あたりですが、「自分達がやりたい、楽しいと感じていることを原点に活動している・・・」の前に専門性を生かしてという文言を入れるということではよろしいですね。</p>

	荒木先生の先ほどのご意見については、どういたしましょうか。
荒木副 委員長	キャンセルしていただいて結構です。
浅尾 委員	今回、検証した取り組みは、特に区の独自の取り組みではなく、市全体の取り組みでしたよね。といいますのは、桜木東校区で特にこのような活動を行っている節はなかったものですから。
上野 委員長	松尾北校区は西区の中で、モデル校区として選ばれたのですよね。
事務局	松尾北校区はモデル校区ではないのですが、西区の方で、健康まちづくりへの取り組みを呼び掛けた際に、比較的、早い段階において手を挙げられ、健康まちづくりの組織作りに取り組まれたということです。
浅尾 委員	わかりました。そういうことで、進んでいるなど感じたところもありましたけれども、昔の村組織のようなどころでやっているなどという発言もさせていただいたところではあります。 7ページの1のところの下段で、「そして、区役所の設置による・・・」のところは、区の独自の政策なのかということをお聞きしたかったところで、そうでは無いということでした。
上野 委員長	ここで書いた意味合いは、例えば、大江のハザードマップづくりの時に、区役所と危機管理防災室の担当者も来て、一緒になって住民と問題を共有しながらやられていたという意味で、区役所という住民に近い存在が活躍し始めたということを表現しています。
浅尾 委員	はい、理解しました。 次の2地域づくりの限界を超える挑戦のところですが、挑戦があるかいらいかも書くべきではないかということで、このタイトルについては、地域の限界を超える挑戦が必要なのだとか、そういう書きの方がよいのではないかと思います。この2の部分の最後から3行目辺り、「緩く広くつながる住民・企業・・・」は非常に良い表現だと感心させていただきました。 8ページですが、3の(1)の3行、「このような社会の課題がある中で、・・・・共助を豊かにしていくことを考えなければならない。」については、行政がやるのかどうかなど、主語が抜けていると思います。入れるとすれば、3行目の「行政は地域コミュニティに築き、・・・」という書きの方が良いのかもしれません。
上野 委員長	8ページの3の(1)の3行目、「地域コミュニティに築き、・・・」の前に、行政はという主語を入れてはどうかということですね。はい。 「・・・多様な主体が補完しあうような、ネットワークを・・・」のネットワークの前の「、」は要らないですね。
浅尾 委員	次の、8ページの3の(2)ネットワークの構築の上から3行、「地域に根ざした団体だけではなく、・・・することが重要となる。」についても、行政がやるのか、それともみんなでやるのか、主語があるべきかなと思いますが、どう思われますか。

上野委員長	この部分は主語、述語がはっきりしていませんが、地域団体だけではなく、NPOなどの色々な団体が連携していくことを語っていますから、行政というよりも、地域とか民間サイドの話を展開したかったのです。
浅尾委員	ネットワークをマネジメントするということになると、誰がするのかということが大事になります。
上野委員長	私は地域やるべきだと思っています。区役所ももちろんその中の役割の一旦を担うことになるとと思いますが、いかがでしょうか。
浅尾委員	私もそのように思っているのですが、主体がどうなるかによって、地域と行政との役割分担がはっきりしてくるのかなと思います。
上野委員長	分かりました。それでは、8ページの3の(2)ネットワークの構築の上から3行は行政と地域が一緒になって、マネジメントを考えていくというニュアンスの表現に改めさせていただきます。
浅尾委員	次に8ページの(2)の①の2行目、先ほどお話が出ていたところですが、「その社会的役割とは、・・・」は「その社会的役割とともに、・・・」か「その社会的役割とは別に、・・・」という文言が入ればよりよいのかと思います。この部分については、先ほど、修正の話が出ていたのでそちらに譲ります。ただ、「・・・自分達がやりたい、楽しいと感じていることを原点・・・」とありますが、NPOとしては、これはどうなのですか。もともとあったような気もしますが。
上野委員長	基本は、専門性や関心を持っている人、私のニュアンスでは専門性だけではないと思うのですが、自分達が必要と思うとかやるべきだと思うとか、やりたいと思うとか、そこが原動力ではないかなという気はしますけれども。
浅尾委員	私も、そのように思っているのですが、NPOで活動していらっしゃる方からのお話からは、少し違っていたかなと思いました。「・・・自分達がやりたい、楽しいと感じていることを原点・・・」の部分はあってよいと思いますので、さらに、坂口委員が仰った「専門性」という言葉を加えていくほうがよいのではないかなと思いました。
上野委員長	「専門的知識を生かして」という言葉でよろしいでしょうか。
坂口委員	はい、「専門的知識を生かして」という言葉を加えていただくと、よいかなと思います。
上野委員長	「・・・基本的に専門的知識を生かして、自分達がやりたい、・・・」ということよろしいですか。あまり「専門性を持って」と言い切ると、専門性を持っていない団体さんは違うと言われるかもしれませんので。そのあたりは、皆様のご指摘を踏まえて修正をいたします。
浅尾委員長	次に9ページの(2)の②の最後の行ですが、「・・・具体的な試行錯誤の行動を求めたい。」のところですが、最初にお話のあった、積極的逸脱の話かなと思ったのですが、そうではなくって、場所のお話についても欲しいなと思いました。
上野委員長	場所の話については、8ページ(2)の①の真ん中あたりに、「・・・相互理解と協働する場の設定が不可欠である。」と書いています。

浅尾委員	その場ではなくて、スペースだったり、施設だったりの場です。そういうものが、欠けています。場所がないと、人は集ることができません。
上野委員長	8ページ(2)の①の最後のところに加えるとよいですが。「・・・お互いの組織を理解し、連携補完しながら活動していくことが求められる。また、行政は人々が集える場所を調整したりサポートしていく・・・」のようなニュアンスの内容でよろしいですか。
浅尾委員	はい。そのような内容でお願いしたいですし、そのようなことを発言してきました。実際、地域活動を行って来て、場所の問題は弱いところと思います。
荒木副委員長	それは、オープンスペースとか施設とかそういう点においてですか。場の概念はそのようなことも含めています。
浅尾委員	どちらかというと、スペースの場です。空間です。
上野委員長	今ある、施設は集会所とか公民館、市民センターなど多様なものがありますよね。もっと、身近なところで、そのような場が必要なのでしょうか。
浅尾委員	そうですね。まずは、不足しているということが1点。さらに、そのような施設がもっと開発されるべきかなと思っています。会議の中で、空き家の活用などについても提案させていただきましたが、やはり、集る場所がないと人が集ることができない。
上野委員長	わかりました。場所の重要性について付記するというので、先ほど、お話のありました、使われない空き家も今後、増えてくると思いますので、その辺りの活用についても言及できないか考えさせていただきます。
浅尾委員	最後に9ページ(2)の③の最後から2行目、「・・・区役所のまちづくり窓口の機能強化・・・」のところですが、区役所のまちづくり担当課とお話しますと、まちづくりがひらがなでありますと、予算的にも、実際は懇話会がしきっていますが、住民からの要望があっても道路のことであったり、ハザードマップづくりにしても危険箇所の話であったりと、ハードを抱えたお話が多いため、相談はあるが土木関係の課に振ってしまいますよということになります。いま、すぐにどうかしてくださいということではありませんが、ハードとソフトの話をもう少し整理して欲しいなと思います。今、行われている自治基本条例の見直しの中で、区のことについて書いていこうとされています。区が出来て2年が経過しますので、いろいろな課題がでてきていると思います。そのような中で、もう少し区を有効に生かしていく手立てとして出てこないかなと思っています。
上野委員長	区制を敷くときに、大区役所制度を熊本市は採用されました。できるだけ権限や機能を持てるようにと議論はやってきました。実際の中身については、少しづつ整備されていっしょいしますので、9ページ(2)の③の一番、最後のところを、「・・・区役所のまちづくりに必要な権限や機能を強化・・・」にしてははいかがでしょうか。
浅尾委員	その方がいいと思います。実際、区役所のまちづくり担当課は窓口業務で悩んでおられるとお聞きしていますので、その方がいいと思います。

<p>上野 委員長</p>	<p>9ページ(2)の③の最後から3行目、「区においても、・・・」は「区においては、・・・」にしたほうがいいですね。</p> <p>外に、お気づきの点とか加えるべき観点がありましたらお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。いろいろご意見いただきましたので、内容的にもコンセンサスが取れたと思いますし、読み上げていただきましたので、日本語のたどたどしい部分も直すことができましたので、答申書として正しくなってきたかと思えます。今日いただきましたご意見により、「このようにしましょう。」と決めた部分もありますし、「お任せいただけませんか。」といった部分もあります。今後は、私と副委員長とお話をして、最終的な原稿とさせていただくということでお任せいただきますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 委 員 承 認 &gt;</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ご審議をいただきありがとうございました。やっと、肩の荷がおりたような気持ちです。</p> <p>後20分ほど残っておりますので、今後のスケジュールとまた、本日はこの後、懇親会も予定していただいておりますが、この委員会の活動についてのご提言、あるいは、委員会に携わっていただいたご感想など、これまでも断片的にはいただいてまいりましたが、お一人お一人、委員としてご意見をお伺いする時間とさせていただきます。</p> <p>それでは、事務的なことから、今後のスケジュールについて事務局よりご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご審議ありがとうございました。</p> <p>今後の、予定についてですが、本日もいただいたご意見を踏まえて、最終的な答申書としてまとめさせていただいたあと、その答申を平成26年3月28日(金)の午後2時から市長の方へ答申するという事で予定をしています。時間としましては30分程度でございます。場所は市庁舎5階の庁議室で行います。委員の皆様もご都合がつけば、ご同席をお願いできればと考えています。その際は、午後1時45分までに6階の市民協働課へお集まりいただきたいと思っております。以上です。</p>
<p>上野 委員長</p>	<p>市長の日程の関係から、日時は決め打ちになっていますが、答申をお渡しするのは一瞬で終わりますけれども、その後、懇談の機会をいただいております。直接、市長に皆様方の日頃の活動、或いはこのように審議会の委員としての活動を通して意見をお話するよい機会ですので、お時間のご都合がつかずならば、是非、ご参加ください。</p> <p>それでは、2年間に渡ります自治推進委員会はこれで終了することとなりますが、先ほどもお話したとおり、委員としてご活動いただいたご感想や考えておられたことなどお一人ずつお話いただきたいと思っております。</p> <p>それでは、毎熊委員よりお願いいたします。</p>

<p>毎熊 委員</p>	<p>2年間ありがとうございました。おかげさまで、本当に勉強が出来たと思っています。最近、自治会の方にも参加させていただくようになって、ハザードマップなども作るような話になってきています。一つの成果だなと思っています。その中で、地域の皆様のお話を聞いて、私達みたいな、いわば任意団体で活動していて、それこそゆるい活動をしているわけですが、地域にどういう関わりを持つのかということが常に課題としてあったのですが、なかなか難しい。その理由が、目指しているものが違う、目的が違うというところなのかなということ、ここにきて良く分かりました。住民のみなさんが、行政に求めているというものが、逆に言えば私達は協働していこうという姿勢があるものだから見えていない。住民の人達は行政に対して、「これはどうなっている。あれはどうなっている。」という意識で常に見ていらっしゃる。そのような問題点の掘り起こしはとても大事だなと感じさせていただいた次第です。この2年間の経験を生かして、地域との関わりということで、今後模索して行きたいと思います。皆さん、本当にありがとうございました。</p>
<p>野中 委員</p>	<p>2年間本当にお世話になりました。10回目の委員会は所要で欠席をしましたがけれども、意見の取りまとめの資料の中に、金子委員の方から婦人会の活動の衰退化という意見があっていました。合併をした植木とか富合、城南は小さい自治体でしたので、お互いの顔が見える付き合いというか、横の繋がり、絆というのがとても強い部分がありました。大きな熊本市に編入されました後、熊本市の仕組みに回りが付いて行くという変化を求められていて、ノウハウを知らない地域住民が市のいろんな手法にどう適応していくのかということが非常に難しい状況です。例えば、婦人会にしても老人会にしても青年部にしても、そういった、小さくてしっかりした絆を持った組織体が無くなってきつつあるのです。それは、合併地区の地域住民にすれば、急に放り出されたという意識が強いのではないかなと思います。その時に各区がどんな形でそのような団体を手助けするか、支援をするかということが、すごく大事になってくるのではないかなと思っています。</p> <p>「政令市になってよかったな。区役所が近くに出来てよかったな。」という思いを、どの区でも実感できるような、そういう、区づくりを住民も一緒になってやっていかなければならないと思います。</p> <p>今回、私達が取り組ませていただいた、健康づくりやらハザードマップやらについては、どこの地区でも取り上げられるような内容の取り組みなのですが、その地区ならではの特性を取り入れるということも大事なことではないかなと思います。金太郎飴のように、どこの地区も同じような活動が同じように繰り返されているということでは、折角の政令市の意味合いが無くなっていくのではないかなと思うのが第1点。それから、本庁と各区役所の繋がりが見えない部分が感じられてなりません。例えば、教育の問題ですとか人権学習の面、男女共同参面の面とかですね。そういったところの各区との繋がりを、もっと見えるような形で展開していただきたい。それから3点目は各区にもう少し権限や財源を任せていただいて、各区独自の特色を持った取り組みができるように、先ほど出ていましたが、大区役所制の熊本市になればいいかなと思います。そのような事を考えな</p>

	<p>がら、この会議に参加し勉強させてもらいました。以上です。</p>
<p>中 村 委 員</p>	<p>私は自治会のまちづくり委員会の会長、中島校区自治協議会副会長という立場もありますので、大変勉強になりました。</p> <p>活動を4年くらいやっているのですが、どういった形で自治協議会、各種団体をまとめようか考えていました。これまで委員会をした中で変化があったこと、事例があつて、松尾校区に行っても上手くいったこととまずいところ、うちと一緒だなと思うところがありました。健康まちづくりの発表会を3分でやってくれと、3分では足りない。もう少し中島のことを話たいと言うのですが、時間が無い。講演会とか辞めて、大学の先生の話はいいのではないか。今、市の職員さんとかのようなことを話しています。今まで、そういったことはなかったんです。結局、予算が100万あったら、先生を呼んで講演会してとか、私たちの時間がないんですね。あと、活動をしてきて一番良かったことは自治会長さん達と仲良くなって、70、80歳くらいの自治会長さん達は、校区の主だったりするものですから、この方々に可愛がられてもらうようにして行くと、次からものすごく接しやすいんですね。</p> <p>昨日、中島校区のまちづくりで、スカイフェスタ、健康ウォークラリーに、去年50万円西区からでたんで、小島校区だけではいけないということで、中島校区にも振り分けられて協働で事業してて、小島、中島で協働で事業していこうとしていくときに、主体はNPOみたいに事業主体を立ち上げたけど、自治会ではやっていないっていうんで、人が集らない。中島校区だったら消防団で何時何分にテントを10立ち上げるといって、300円で婦人会で弁当を200作ってくれて言うことができますよという、小島はそうじゃないんですよ。隣の校区ですけどやり方がぜんぜん違うんで、言われたのは中島校区はまとまっているからよいいと言われますが、中島校区はまとまってはいいですよというやりとりがありました。そういったことも出来ないんで、20年間まちづくり委員会が熊本市にできた時に、中島校区もまちづくり委員会を立ち上げてやってきたんですけども、途中で自治協議会という団体を施策でやったので、折角まちづくり委員会は自治協議会のトップに立って、社協とかに、子育てとかやった時に、自治協議会がよこからきたので、お金が20~30万円しか予算が出てこなくなりました。その時にまちづくり委員会は6年間くらい崩れたんですよ。花火大会も20年間上げていたのを3年間くらいあげられなかったんですよ。もう少し行政は、区役所関係については、その前に、課が立ち上がって、まちづくり委員会で形を作って自治協議会にポンとのし上げて、自治協議会で自治会に言って、区を巻き込むような算段があつたんですけど、それを崩したので、まちづくり校区70校区の団体長が、会を抹消してしまって、地域づくりが少し疎かになっているので、そういうのをまた、シティFMさんとかと組んでまちづくりやろうと再構築しようとして約10年くらいですかね。そういった動きになっています。行政の方は、市民にもう少しキャッチボール、市民に任せるところは任せたいし、ボランティアでやっているのにお金はなくていいんですけど、行政に関わってまちをよくしたいとしている人を見てほしい。結局、私達が60、70歳になった時に、</p>

	<p>楽したいという思いがあるので、今のうちに一生懸命やっとうと動いているんです。2～3年前に中島校区は婦人会も無くなったんですよ。JAの団体があって、全部引き継ぎますって言われましたけど仕事はしませんと言ってなくなったんですよ。今は中島は形は残っているんですよ。チラシ配ったりとか、レジ袋とか8020運動ですか、そういった時に、地域住民がちゃんと集ってたんたんとやっていたらよかったんですよ。こういった組織はまだ残ってますんで、そういったところをまちづくり委員会でフォローして行って、中島校区をやってきたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>坂口 委員</p>	<p>2年間お世話になりました。先ずもって、自分がまちづくりに関わっていない、個人的に関わっていないなということが反省でありました。今、植木町でNPOの活動として、北区のまちづくり推進課の方がすごく良い活動をされていますので、ご紹介させていただきます。植木温泉観光組合の方と植木町の文化ホールと、私もコーディネーターとして入らせていただいて、植木町の活性化のために何かイベントができないかということで、去年の3月から「植木アートスパ」というイベントをされています。植木温泉ではそれまで、各組合がばらばらに活動されていたのですけれども、2～3月に1回ずつ各旅館持ち回りで、その旅館を会場としてミニコンサートをするようになりました。ご尽力されているのが、北区のまちづくり推進課の方で、まさにコーディネーターとなって、縦社会の組合の中に入って行って、「こういうことをしませんか。」と持ちかけて、ホールの予算をいただきつつ、私達のようなNPOを巻き込んでいただいて、活動しています。今度、4回目になるのですけれども、植木温泉の活性化ということで活動を続けています。上手く協働の形でやらせていただいている事例かなと思い紹介させていただきました。次は3月7日にやるのですけれども、私達の力も活かさせていただきますつつやれているかなという気がしております。</p> <p>本当にいろいろと勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>金子 委員</p>	<p>2年間ありがとうございました。お世話になりました。</p> <p>富合町も合併して手探りのなか、自治協議会がやっと立ち上がり、まちづくりに取り組んでいます。婦人会も自治協議会に入れていただいているのですけれども、婦人会は70年近く活動を続けているのですけれども、婦人会というものは集落でそれぞれのまとまりができていたのです。その集落が自然に壊れてしまって、年配の方は辞めていく、若い方は仕事などで忙しくて活動に参加できないという形で、集落自体がばらばらになってきています。さらに合併したことで、新しい、アパートなどがどんどん増えてきて、そこの住民を地域の行事に引き込みたいというのがあって、婦人会に入りませんかと誘っても、お勤めがあって入れないということです。自治協議会の各地区の会長さん達も、そういう新しい住民の方達を誘い込むことが難しいということでした。自治協議会が立ち上がったばかりで、私も入れていただいているのですが、まちづくりをどうするかという会議を月に1回くらい行っているのですけれども、完全にはまとまりが出来ていなくて予算も組めない状況です。私としては、女性の立場から地域は地域の人達でみんなを見守って行こうという考えを持っているのですけれども、なかなか難しい状</p>

	<p>況です。介護施設なども出来てきたから、介護の人達が地域の方を見られるということにはなってきたのですが、地域の人達で声掛けあって生活していければ一番いいと思っているので、どうしたら、そういうことができるのかということが一番の悩みです。</p> <p>今回、このような会議に参加させていただいて、よその地区のことなどを勉強させていただいたので、今後、地区に持ち帰って少しでも多くの婦人会さんと地域の方達と皆で集って話し合い、地域をどのように盛り上げていくかということで、努力していきたいと思います。</p> <p>2年間とても勉強になりました。ありがとうございました。</p>
石田委員	<p>2年間あっという間だったなと思いました。政令指定都市への移行期を迎えるなかで、市民と行政、多様なアクターがどうやって連携していくかということは、私にとっても大変勉強になりました。心残りは所用で現場視察に参加できなかったことが非常に残念でした。是非機会があれば、大学の学生も連れて視察をしたいと思います。私も大学に身を置いていて感じるのが、若い人が自治会とか年配の方と話すことが怖い、どうやって一步踏み出して良いのか分からないというふうに感じています。ただ、地域活動など何かをやりたがっている若者はものすごく多いように感じます。ひとりではできないけど、上手く若い人を巻き込むネットワークについて、その繋ぎ役は行政だけではなく、大学とかNPOとかでも出来たらいいのかなと思います。最近、面白いと思った事例で、福井県の鯖江市でJK課というのを設けたのです。JKとは何かと思い調べたところ、これは女子高生なのです。役所内に一箇所部屋を設けて、答申書にもありますけれども、ソーシャルビジネスをやり始めた人が仕掛け人になって、女子高生を20人くらい集めて女子高生から見た鯖江市の活性化を考える。なんで、女子高生なのかということについて、記事に書いてあったのですけれども、行政から見てまちづくりに一番関わりが少なかったのが女子高生だったということです。女子高生の視点から見て、今まで、鯖江市がPRしてこなかったもの、例えば食べ物の美味しいところを観光マップに落とすとか、鯖江市はメガネの生産で有名ですけれども、年配の方だけではなく若い人から見たファッションセンスの高いメガネはどういうものなのかとかをPRしています。このように、若い人の巻き込み方というのは色々あるのではないかなと思いました。そういったところを、大学とかでも、今日出てきた、積極的逸脱の話ではないですけれども、調査、分析して、書いた文書だけに終わらせずもっと分るような形で市民の人達へ発信していく必要があると思います。地域の中の若い世代から年配の方まで、いろんな職業の方、性別、時には国籍も問わずでもよいのではないかなと思うのです。日本に滞在している熊本が好きだという留学生もいます。そういった人達を巻き込める場をつくることについて、大学の持っているネットワークを活用してお手伝いできたらなと思います。本当に勉強になりました。ありがとうございました。</p>
浅尾委員	<p>私はいろいろと不満ばかり言ったような気がしまして、申し訳ございませんでした。最後にというのはなんですが、この委員会は自治基本条例の第37条で設置されている委員会です。合併し政令市になり、区制が敷かれて2年になります。</p>

	<p>今から、自治基本条例の中に区のことを書かれていくということになりますので、もう少し市政のことにまで口出しをしていいのではないかという気がしています。現市長が引き続き市政を担われるにしても、市長がやりたいことを応援できるような形で、諮問として投げ込んでいただいてもよいのではないかと思います。市長が変わられたら別なのかもしれませんが。これまでは、まちづくりや地域づくりの話が多かったかと思います。自治基本条例に基き市民参画と協働の推進条例ができていますが、こちらは、どちらかと言うとまちづくり主体のお話なので、まちづくりなどの議論については別に設けていただくこととして、自治基本条例37条に基き設置された委員会であるということ考えた時に、大所高所の部分にも意見のできるような委員会であってもよいのではないかと思います。これまで、このように委員として経験し勉強して育てられています。第1回の委員会の委員の方もいらっしゃるの、そのような方々が集って市政について意見していくなり、市長からどうなのかということに投げ掛けられた市政の問題について議論する場になって欲しいなと思いました。</p> <p>長い間、お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>荒木副 委員長</p>	<p>2年間、大変お世話になりました。勉強させていただきましてありがとうございました。私は、東京から熊本に移り住んで、2000年4月に来たものですから、14年目に入ったということでございまして、そのうち、11年間は熊本市、熊本県と関わり、そういう過ごし方をさせられたと言った方がよろしいかと思えます。やっとこれで肩の荷が下りて、ほっとするかなと思います。3月までに書き上げないといけない論文を2本抱えておりまして、昨晚、その内の一本を書き上げたのですが、その中で参考にした文献があります。鈴木栄太郎博士が書いた「日本農村社会学原理」というものすごく堅いタイトルの本でございまして、これを読んでいきますと、江戸末期から明治初期に掛けて自然村を町、村と呼んでいた時から、それを壊して幕府が公的性を町、村に持たせる、役割付加を与えながら公共化していく、村づくり、町づくりをしていくということを明治20年代までやっていたのですが、その自然村の概念を行政村に対比して日本で始めた打ち立てた学者が、鈴木栄太郎博士であったわけです。読んでみると、ものすごくおもしろいのです。堅くないのです。すいすい理解できる内容でございました。日本は農村社会からスタートしているということでございまして、集落単位で田植え、稲刈り、屋根葺き、それから田んぼがあれば水を引かなければなりませんので、水路の維持管理、集落単位でみんな力を合わせてやってきていたのですね。協働そのものを日本は昔からやっていたのです。それを取り返そうということになってきているのですが、なぜそれが無くなってしまったのか、誰がなくなったのだろうか。我々一人ひとりがなくすほうに尽力してきたのだろうかし行政もそうであった。よってたかってそのようなよい慣習をなくしてしまってますね、今、再びそのような良い慣習を取り戻そうと四苦八苦している。外された要因をもう一回もとの姿に戻してあげる、現代の科学技術の要素を取り込んだ協働の姿に作り直していくという発想も必要かなと、この本を読んで思いました。タイトルはものすごく堅いのですが、中身はすごく分りやすい内容の書物です。その本は未来</p>

	<p>社という出版社から出版されているのですが、ちょうど、私が生まれた年に出版されているということが分かりました。70数年前に出版されていたわけですが、そのくらい前から協働といったものが実践の形で社会の生活原理として、生かされてきたということ、これは、行政はもう1回掘り起こして勉強する必要があるのではなかろうかというふうに思いました。</p> <p>おかげさまで、現場の話もたくさん聞かせていただいて、大変勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>上野 委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>私も、2年間委員長の役を仰せつかっておりましたが、十分に職責を果たせたかどうか危ないものだなと思っていますけれども、ご協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>資料を市から送っていただいて、参考資料の議事概要を改めて読んで見まして、私の発言は非常に心無い発言が多いなど、自分で悲しくなってしまいましたが、少し、弁解がましく言えば、理想はあるのですが人間の行動というものは理想に向かって行くだけではなくて、反対のこともやっている。その部分がいつも気になっていまして、私達は人間を研究する部分がどうしても癖になってしまい、少し悲観的な発言や挑発的な言い方をしてしまって、それが、こんな書き言葉で残ってしまうのが怖いなど思ったりもしております。皆様と一緒に議論するなかで、若い方々が関心を持つ部分、それから地域にずっと住んでいらっしゃる方々が関心を持つ部分の接点を作る可能性についても意見交換もできましたし、私自身もいい歳になりつつありますので、地域の中にきちんと足を立てた人生が送れるような人間にならなければいけないと改めて思いました。</p> <p>本当に2年間お世話になりました。ありがとうございました。</p> <p>それでは、先ほどから局長にもおいでいただいていて、皆様のお話も聞いていただいていたいました。それでは、最後に事務局よりお願いいたします。</p>
<p>企画振 興局長</p>	<p>それでは、私から、一言お礼をのべさせていただきます。2年間11回に渡って、市長の諮問を受けてご議論いただき誠にありがとうございます。大変お忙しい中にご出席いただいたということで、感謝をしております。そして、私も、答申書を読ませていただきましたが、ネットワークづくりや情報共有など、私達が悩んでいることを的確に指摘していただき、答申書として文書にまとめていただいたということで、大変心強いと思っています。熊本市も2年前に政令指定都市になりました。これまでは、政令指定都市になったなっただけと言っていましたが、もうすぐ3年目に入ります。委員の皆様からも悪い面についてご指摘を頂きました。市が大きくなるとどうやってまちづくりをしていくのか、行政と市民の方々が遠くなるのではないかということで区役所を作りまして、区役所の中でまちづくりをやっていこうということになったのです。そのような思いはありましても、現実的には区役所間でも、職員間でも、市民間でも温度差があることは事実でございます。本庁と区役所、区役所同士、そのネットワークについて試行錯誤しているところです。今回の答申を踏まえまして、来年度は本庁と区役所の役割を整理していこうと、一歩、踏み込んで行こうとしていますし、国においても、今回</p>

	<p>の国会の中で、区を特別の区にして、区長を特別職にする、又、区の役割を条例で規定するという法律も上程されるというような話も聞いております。やはり我々が持っている課題は、全国20市あります政令指定都市に共通したものであり、悩んでいることなのだろうと思います。先行政令指定都市にいろいろたずねますけれども、明確な答えは返ってこないのが事実でございます。それぞれの市が独自にやっていたらなければならないのだろうと思っております。また、まちづくりにつきましても、これまで区長の権限をどうするのかという問題がありました。来年度は、区長の権限で執行いたします区のまちづくり予算を1千万ありましたものを2千万に倍増しまして、今回、議会の方に上程しています。議決いただければ、来年度は倍額にしたまちづくり予算により、区のビジョンに沿ってまちづくりを進めていけるということになります。ただ、外の問題もありますので、市民の皆様からご指摘を受けることだろうと思いますので、そういう意味でも自治推進委員会からいただいた答申については、できるだけ具体的な行動に移していきたいと思っております。政令指定都市に移行して何が変わったのだという声も聞かれるところですが、出来るだけ、政令指定都市になって良かったと言われるよう、市長を筆頭として頑張っていきたいと思っております。第2期の自治推進委員会は本日で終わりますが、皆様にはいろんな形でご助言をいただきながら熊本市をよりよいまちにしていきたいと思っております。今後ともご指導いただきたいということをお願いいたしまして、お礼の言葉に変えさせていただきます。大変長い間ありがとうございました。</p>
<p>上野 委員長</p>	<p>ありがとうございました。これで、本日の委員会を終了させていただきたいと思っております。事務局の方にもサポートしていただいてありがとうございました。それではこれで終わります。</p>